

学校教育目標	学ぶ つながる 篠原の子 知 主体的に考え、意欲的に学習し続ける力を育てます 徳 自分を律し、人を思いやる優しい気持ちを育てます 体 体力づくりを通して、たくましく生きる力を育てます 公 篠原のまちを愛し、他者と協働する力を育てます 開 自分を見つめ、多様性を尊重し、共生する力を育てます				
	創立 64 周年 児童生徒数: 672 人	学校長 松久保 伸子 主な関係校: 篠原中学校、篠原西小学校、港北小学校	副校長 三上 顕	2 学期制	一般学級: 21 個別支援学級: 4

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	篠原中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
主体的に学習する力 情報活用能力 多様性を認め合う力	篠原中学校 篠原西小学校 港北小学校	○自己肯定感をもち、未知へのことへ主体的にかかわる子ども ○他者への感謝の気持ちをもち、自らも社会貢献する子ども ・児童自らが学習の見通しをもって学ぶ授業展開を工夫し、学習意欲を高め、主体的に考える力を育てる。 ・生活や他者とのつながりを大切に学習を重視し、学ぶ意義や楽しさを知って意欲的に学ぶ子どもを育てる。 ・しのはら学校支援地域本部と密に連携し、地域コーディネーターと協力を受けて、生活科や総合的な活動の時間の充実を図る。

中期取組目標	○一人ひとりの子どもが主体的に活動する姿を大切に、他者とのつながりを実感できる学校づくりをします。 ・1年目は、情報活用能力を高め、他者とのつながりを意識できる授業づくりを推進します。 ・2年目は、子どもを中心に据えた教育活動を進めていきます。相手意識をもって伝え合う力を伸ばします。 ・3年目は、他者の考えを尊重しながら、自分の考えを深める力を伸ばします。
--------	--

重点取組分野	具体的取組				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">知</td> <td>授業改善</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>AB研究部</td> </tr> </table>	知	授業改善	担当	AB研究部	①児童自らが見通しをもって学ぶ授業展開を工夫することにより、主体的に学び考える力を育てるとともに、重点研究においては、子ども自身が表現したくなる授業展開を考え、子どもが学んだことをそれぞれの力と目的に応じて効果的に表現することを目指して行く。②他者とのつながりや生活とのつながりを意識した学習を重視し、意欲的に学ぶ子どもを育てる。③幼保小中との連携を深め、教育課程の見直しおよび充実を図る。
知	授業改善				
担当	AB研究部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">徳</td> <td>道徳教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>道徳部人権教育推進</td> </tr> </table>	徳	道徳教育	担当	道徳部人権教育推進	①学級で人権目標を立てて、お互いの違いや良さを認め合い、誰もが安心できる学級づくりに取り組む。②ペア学年の活動や学年内の交流活動を行い、児童同士のかかわりを強化し、自分も他者も大事にすることを理解し、実践できるようにしていく。
徳	道徳教育				
担当	道徳部人権教育推進				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">体</td> <td>健康教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>体育部食育部</td> </tr> </table>	体	健康教育	担当	体育部食育部	①新体力テスト診断システムを継続利用し、児童自らが自身の体力について把握できるようにし、主体的に運動に取り組む姿勢をはぐくむ。②新体力テストの結果が下がったのは、日々の活動量の低下が原因の一つと考え、行事や遊びを通して体力が向上する活動を取り入れていく。③学校食育年間計画に沿って給食や学級活動の時間を利用して、健康を意識する児童を育てる。
体	健康教育				
担当	体育部食育部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">公 開</td> <td>キャリア教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>生活総合部特活部</td> </tr> </table>	公 開	キャリア教育	担当	生活総合部特活部	①地域の人材を生かした授業展開を工夫し、自分と社会とのつながりを実感できるようにする。②「自分づくりパスポート」を活用し、自分の変容や成長を自己評価できるようにする。
公 開	キャリア教育				
担当	生活総合部特活部				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">いじめへの対応</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童指導部</td> </tr> </table>	いじめへの対応		担当	児童指導部	①いじめ防止対策委員会を定期的(月1回以上)に開催し、再発防止と未然防止の検討を行う。また臨時の委員会は随時行い、積極的にいじめを認知する。②「せんせいあのおねタイム」の教育相談やアンケートを積極的に行い、早期発見やチーム対応の児童指導をさらに進めていく。
いじめへの対応					
担当	児童指導部				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">人材育成・ 組織運営(働き方)</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>メンター教務部</td> </tr> </table>	人材育成・ 組織運営(働き方)		担当	メンター教務部	①メンターチームの研修や、長期休業を利用した職員研修を計画的に実施し、職員の指導力向上の機会を積極的に設ける。②40分授業を取り入れた日課表導入1年目となる。大きな改革になるので、児童の変容をよく見ながら、軌道にのせていく。
人材育成・ 組織運営(働き方)					
担当	メンター教務部				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">地域学校協働活動</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>学地地連担当</td> </tr> </table>	地域学校協働活動		担当	学地地連担当	①2年目となる学校運営協議会を活用し、地域の力を生かした授業づくりへの協力を依頼し、地域の方の教育活動への参画を推進する。②地域学校協働活動推進委員(学校地域コーディネーター)と職員が直接かかわりあう機会を増やし、地域とともに学校教育を考える機運をさらに高める。
地域学校協働活動					
担当	学地地連担当				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">特別支援教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童指導部</td> </tr> </table>	特別支援教育		担当	児童指導部	①交流委員会を特別支援教育委員会に変更し、多様な学びが必要な児童の実態を把握し、支援の方法を検討する。②発達特性やその効果的なかかわりについて研修会を実施し、職員の理解と実践力を高める。③特別支援教室推進校として、支援教室利用者の支援の在り方を研究していく。
特別支援教育					
担当	児童指導部				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">情報教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>情報部重点研究</td> </tr> </table>	情報教育		担当	情報部重点研究	①ICT機器を効果的に使いながら、自分の考えを深め、自分の思いをより効果的に伝える能力を高める。②重点研究は表現力を育成するテーマが変わるが、当然ICT活用も意識した内容になる。児童が表現方法を自ら選んだり、より効果的な表現方法を見つけたり、子ども達が表現したいと思う授業の流れを考えたりする中で、情報活用能力を育てていく。③一部学年でデジタル教科書の運用を本格化する。
情報教育					
担当	情報部重点研究				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">児童指導</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童指導部</td> </tr> </table>	児童指導		担当	児童指導部	①篠小スタンダードを活用し、子どもたちに分かりやすく生活のルールを示していく。また社会情勢にあったスタンダードであるかどうかの検討する。②児童指導を担当だけが行うのではなく、学年単位で動き、より効果的な指導に高める。チーム学年経営の取り組みを児童指導に生かし切れていない面があるので、多くの職員が児童の育ちを見守る体制を強化していく。
児童指導					
担当	児童指導部				